

令和3年度 第4次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要

《会議概略》

日時 令和3年6月25日（金）10時～12時10分

場所 コミュニティプラザ 会議室1

出席 赤川都 石崎勇仁 伊藤淳一 岩崎雅美 小滝一幸 後藤清 齋藤靖之
高橋紘之 土屋テル子 長嶋潤 林清 菱沼幹男 増田恵美子 山村康一

事務局 山下晃 大熊静子 星野孝彦 奥山裕司 関口美智子 富田千秋 千葉美由紀

1. 開会

社会福祉協議会事務局長より

2. あいさつ

社会福祉協議会会長より

3. 委嘱状の交付

机上配布により委嘱

4. 委員紹介

委員自己紹介、事務局自己紹介

5. 清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会設置要綱について

事務局長より説明

6. 委員長及び副委員長の選任

事務局 委員長及び副委員長の選任を推薦にて行いたい。

委員 委員長に菱沼委員、副委員長に赤川委員を推薦する。

異議なしのため委員長に菱沼委員、副委員長に赤川委員が選任される。

7. 委員会の進め方について

★ 資料3に基づき、事務局より説明

事務局 今後の傍聴について、委員会で承認後、入室を許可したい。本日は議事8から入室となるが、傍聴希望者はいない。

議事録について、作成後、委員あてにメールにて送信する。次回委員会までに修正等あればご連絡いただきたい。次回委員会にて確定後、委員名は伏せ

てホームページにて公開したい。
異議なしのため承認される。

8. 地域福祉活動計画の意義と地域福祉の推進について

★ 資料4に基づき、委員長より説明

委員長 都内における地域福祉コーディネーターの配置状況はいかがか。

委員 62市区町村中、35の地域で配置。近隣では東久留米、小金井市、小平市、武蔵村山市、西東京市など、17支部で配置されている。

9. 計画策定の流れとニーズ把握の方法について

(1) 計画策定の流れ

★ 資料5に基づき、事務局より説明

事務局 5年計画とし、地域福祉計画と終了期間を合わせていきたい。

委員会と職員ワーキングチーム、作業委員会を平行し実施していきたい。
ニーズ調査はアンケート調査を中心としていく。また、中間まとめ後に地域懇談会やパブリックコメントを実施、策定後には地域福祉フォーラムを予定したい。

委員長 アンケート調査について、説明いただきたい。

(3) アンケート調査の実施について

★ 資料7に基づき、事務局より説明

事務局 配布数等の数字は第三次のものを記載している。赤字の部分は第三次策定時からの変更箇所であり、職員ワーキングチームの意見等を反映させた。

委員長 職員ワーキングチームや関係者での検討状況について説明いただきたい。

(2) ワーキングチームの報告

★ 資料6に基づき、事務局より説明

事務局 各現場から見えている地域課題をもとに、明らかにしていきたい地域ニーズや必要な取り組みについて仮説的に出し合い、アンケート調査項目案に反映させた。

委員長 各委員から地域課題やアンケート調査について、ご意見をいただきたい。

委員 保護者会の役員について、共働き世帯の増加などで忙しく、選出が難しい。困っていることはあっても、相談に行く時間がない。そういった人のことを加味していけたら良いのではないか。

- 委員 不登校の居場所づくりを行っていて感じることは、引きこもりの 20.30 歳代の就労問題や、ヤングケアラーの問題。精神疾患で入院中である母親の、年長の子がヤングケアラーの役割を担っている。障害者手帳を持っていなくても、周りの環境が整っていれば自分で生活できるが、制度を使うために病気にさせられているかのように感じる。
- 清瀬には重度心身障害の子を預かる場がない。両親のレスパイトをさせてあげたくても、多摩北部医療センターに行く必要がある。入学しても、医療的ケアが必要な子を預かる放課後等デイサービスがない、特別支援学校も小平に行く必要があるなど資源がない。地元で支え合いの仕組みがあってほしい。1.2 歳で発達課題を抱える子は多く、幼稚園前の支援を丁寧にできる仕組みがあれば良い。
- また、清瀬への転入者は多く、転入者が自治会などを作っていき手伝いを、生活支援コーディネーター等が中心となりできれば良いのではないかと感じる。地域で気持ちよく過ごせるよう、住民同士で案内していけたら良い。
- 委員 日本語教室と多文化共生の活動をしていて感じるのは、外国人が日本語を習うことの重要性を、教える立場が考えていない。なぜ日本語を勉強するのか、なぜ子どもが日本語を習わないといじめにあってしまうのか等考えることが大事だと思う。
- 外国人の災害時の通訳の問題や、子どもの入学に必要な物・お金の案内等を多摩六都地区で連携し関わっているが、難しい面がある。
- 自治会では、世代間でのギャップが大きい。若い世代の発言を否定する場面があり、残念に感じる。高齢者側にも問題があるのではと感じる。
- 委員 視覚障害者は情報収集に課題がある。アンケートの対象者では、情報をキャッチできない人をどう把握するかが難しいと考える。
- 委員長 支援者アンケートにて代弁できると良い。
- 委員 高齢者は、アンケートや回覧板を見ない。困りごとがあっても、行動に移さない状態。自身が行っている活動では、そういった方への取り組みを構築し始めたところ。アンケートを実施するなら、回収率 50%は欲しい。回収率を上げるため、考える必要がある。
- 委員 清瀬はエリアによって課題が異なるため、多様性が知れたら良い。世帯構成の違いや外国籍、障がい、引きこもりなど。
- 新住民と旧住民が共存していく仕組みづくりが大切。課題の把握のみではなく、清瀬の良いところや強みを知って活用していけたら良い。
- 東京らしい地域共生社会づくりの報告書内で、民生委員・社協・社会福祉法人が連携しながら地域づくりを進めることをうたっている。また、地域福祉コーディネーターが核となることが大切とうたっている。
- 委員 一定数、手帳を取得せずサービスにつながない世帯が清瀬にもあると聞いている。ニーズをどういう形で拾っていけるか、法人としてどう貢献で

きるか考えている。

相談支援事業所が関わっていた事例では、軽度知的で、ネグレクトを受けていた女性が、世話になっていた同級生の親から、お金を搾取された。発覚したきっかけは、性病で受診したこと。助けを求めることのできない当事者や、そもそも、自身に起こっている問題への理解が難しい方がいる。そういった方たちの声を拾っていく難しさがあるが、障害者施設として貢献について考えていきたい。

委員長 実習生から、障害者施設利用者の方が、地域の方の困りごとの手伝いをしてしていると聞いた。

委員 施設駐車場で農家の方が野菜を販売し、購入されたものを利用者が散歩を兼ねて届けている。

委員 清瀬は自治会結成率が低い。アンケートは一般市民にランダムで実施してはどうか。また、社協会員全員に実施してはどうか。

委員長 市民向けには、各地域づくりの会で丁寧に実施していきたい。

委員 地域包括支援センターを担当している中で、目の前にあるのは 8050・7060・9040 問題や家庭内暴力による緊急避難。初動対応した職員がつなぐ場により結果が変わることが危惧される。

アンケートについて、当事者層の回答率が低いのが気になる。回答できない 7 割側に多くのニーズがあると考え。いかに引き出すか考えていければ良い。また、居住地区については、同じ町内でも特色が違うので、明確になる表記方法が良いのではないか。

委員 資料 6 について、①高齢者のコロナ禍の安否確認が直近の課題。パソコンの利用課題と合わせて取り組めると良い②買い物に困る高齢者の問題については、長期的な検討が必要。社会貢献事業のなんでも相談窓口にて農協の野菜を販売し、市内で循環できたら。③財源に関するクラウドファンディングについては、立ち上げ支援を活用してはどうか。

資料 7 について、①質問の順番は、プライバシーに踏み込む質問が後半にあると良い。また、小学生向けの質問の順番が前後しているので修正を。市の福祉教育と関連も考えては。②小学生への実施方法について、デリケートな設問があるので要確認。

委員 地域福祉計画の持ち越し課題について押さえていきたい。特に、支えられる側と支える側のバランス。また、再犯防止推進計画との連携を行う自治体も増えているので、加味したいところ。

委員 円卓・地域づくりの会代表、避難所運営協議会をやっていることは、浸透不足や現役世代の参加がないこと、女性リーダーがいないことが課題。ボランティアと学校をうまくつなぎたい。子どもがいないと、学校に入りにくく、地域で孤立しやすいのではとも感じる。

清瀬で育った子が、戻ってきたいと思える地域になると良い。

副委員長 人、お金、場をつくることが重要。情報が届けば解決する場合があるので、傾聴を大切にできる場・システムをつくっていききたい。

委員長 議論を重ねていききたい。議事は以上とする。

10. その他

★ 事務局より事務連絡

- ・当日配布した資料8の提出をお願いしたい。
- ・開催通知は1か月前を目途にメール送付を基本、会議資料は3日前までに郵送又はメール送付する。
- ・謝金は会議終了後1か月以内に振込とし、振込通知は発行しないのでご確認を。
- ・次回委員会は8月2日（月）10時から

11. 閉会

事務局長 以上で第4次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会を終了する。